

EMぼかしを使用した 生ごみリサイクルマニュアル



市民写真提供：生ごみたい肥を使った土（左）と通常の土（右）を使い比べて栽培したじゃがいも



四街道市廃棄物対策課

R3.5月改正

【投入する生ごみについて】

1. 投入できるもの
 - ・私たちが普段食べているもの
2. 投入できるが注意が必要なもの（例）
 - ・果物の皮（小さく切って入れてください）
 - ・卵のから（細かく砕いて入れてください）
 - ・油の多いもの（紙類で油を吸わせて入れてください）
 - ・果物などの種（細かく砕いて入れてください）
 - ・肉や魚の骨（小さく切って入れてください）
 - ・貝殻（細かく砕いて入れてください）
3. 投入するのに向かないもの（例）
 - ・腐ってしまった生ごみ
 - ・腐りやすい生ごみ（生肉や生魚）
 - ・カビの生えた生ごみ

【用意するもの】

- ・生ごみたい肥化容器
- ・EMぼかし

※EMぼかしはホームセンター等で購入できます。

- ・新聞紙

【生ごみを使った肥料の作り方】

①容器の中に新聞紙を敷いてください。



②容器の底が見えなくなるまで、EMぼかしを撒いてください。



③十分に水気を切った生ごみを入れ、その上から生ごみが見えなくなる程度EMぼかしを撒き、かき混ぜてください。

※初回は全体をかき混ぜてください。

※2回目以降はその日に入れた分をかきまぜる程度で十分です。



④③でかき混ぜたものが隠れる程度にEMぼかしを上から撒いてください。



⑤④の上に新聞紙を敷いてください。

新聞紙の上に手を置き、空気を抜くように下方方向に押し込んでください。

その後、空気が入らないようにふたで密閉してください

※新聞紙は手を汚さないために敷くので、敷かなくても支障はありません。



⑥容器の中身がいっぱいになるまで、上記①～⑤の工程を繰り返してください。いっばいに溜まったら、直射日光の当たらない場所に1週間程度置いてください。ぬか漬けのような発酵臭がしたり、白カビが生えていればうまくできています。ここまでの工程でEM発酵肥料の完成です。

※悪臭を放つ場合は、発酵ではなく腐敗しているので、中身を捨て、再度挑戦してください。



白カビが生えている状態です

【生ごみを使った肥料の使い方】

⑦⑥の工程を終えた後、プランターを用意して、プランターの底に土を敷き詰めてください。(プランターの高さの1/4程度)

※プランターを使用せず、庭で使う場合には、庭の土と⑥の工程で作ったEM発酵肥料を混ぜ合わせれば、完成です。(微生物等によって分解される) ⑦~⑩の工程は不要です。

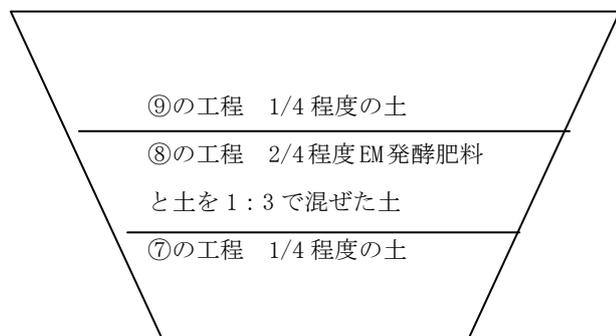
⑧上記⑥の工程で作ったEM発酵肥料と土を1 : 3の割合で混ぜ合わせて、⑦の工程で敷き詰めた土の上に敷いてください。(プランターの高さの2/4程度)

⑨⑧の工程で敷き詰めたEM発酵肥料入の土の上に土を敷き詰めてください。(プランターの高さの1/4程度)

⑩⑨の工程を終えたプランターの上に、新聞紙やタオルをかぶせて、かぶせたものが風で飛ばないように紐などで厳重に固定した上で、直射日光の当たらない場所で1か月程度放置してください。

⑪⑩までの工程が終わったら、肥料入りの土が完成します。苗を植えたりや種を蒔いて使用してください。

(参考) ⑦~⑩の工程のイメージ (プランタ内のイメージ)



【補足】

1. 生ごみの水きり

生ごみの水分量は全重量の約8割になると言われています。十分に水気を切り、容器に入れてください。(生ごみを握った時に水が滴らない程度)

2. 発酵液について

一番初めに生ごみを容器に入れる前に、容器の底に新聞紙等を敷いてください。(生ごみが蛇口につまらないようにするため)

また、生ごみたい肥化によって容器内に発酵液がたまるので、ときどき蛇口をひねって発酵液を取り出してください。発酵液は1000倍に薄めると、液肥として使用できます。また、100倍に薄めて排水溝やトイレなどに流すと、嫌な臭いやヌメリがなくなります。

3. 生ごみを小さく切る

生ごみは小さく切ってください。(容器の中に入れた生ごみを混ぜやすい程度)

【問い合わせ先】

四街道市役所環境経済部

廃棄物対策課 計画係

☎043-421-6132